

学校には思い出いっぱい

明治5年に学制が發布され、国民に就学の義務が課されました。摂津市域では、近隣地区と同様に、お寺を学校とし住職を教師として、いくつかの学校がスタートしました。明治7年のことです。その頃はまだ就学する子どもは少数でした。

その後、地域住民の多大な努力によって、独立した学校が建てられるなどして、就学率も徐々に向上していきました。学校は文化の発信源となり、さまざまな行事も学校で行われるようになっていきました。

こうしたこともあって、昔の小学校は今よりもずっと地域と密接な関係にありました。上級学校へ進学する人も少ないため、地域の学校で過ごした年月には思い出が凝縮されていたようです。



味舌小学校卒業写真（大正 15 年）

昔の子どもの表情がしっかりしていることに驚かされる



字を書く練習に使った「石盤(セパン)」

平らな石の上に、ろう石のような柔らかい石の筆で文字を書く



鳥飼小学校

大正 3 年 3 月撮影

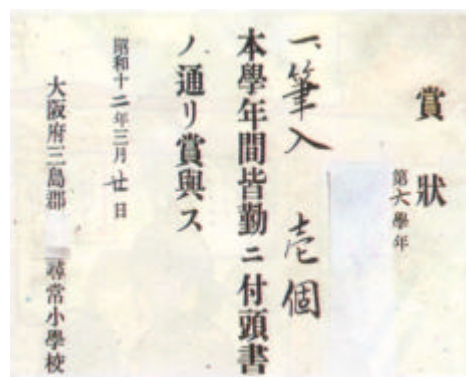


昔の教科書

小学 1 年生

昔の賞状

一年に一度も休まなければ「皆勤賞」がもたらえた





味舌天満宮の中にあった味舌小学校
明治 40 年の卒業生代表が画いもの



奉安殿
昭和 4 年鳥飼小
天皇皇后の肖像写
真を納めた倉。
戦前はどこの小学
校にもあった



三宅小学校の運動会（午後の部） 昭和 10 年前後
午前中は児童の運動会、午後は青年団や処女会の演技が
おこなわれた



鳥飼小学校の遠足
桜井の駅跡 昭和 11 年
遠足は遠い所でも歩いて行った。
忠君愛国のため楠木正成の史跡
がよく選ばれた

思い出語り

小学校を卒業すると、2 年間の高等小学校（高等科）に進みます。中学校や女学校なんて、ごく一部の子だけが行きました。

通学の服装が着物とぞうりから洋服と靴に変わったのは、昭和の初め頃からです。裕福な家庭から変わっていきました。

先生はこわかったです。何かあると「先生に言うたるぞ」といいました。先生の言うことは、何でも絶対に正しいと信じていました。

遠足は、三島江のヤエモン屋敷（桜の名所）、藤森神社、一津屋の渡しと水門、柴島浄水場、茨木安威のイボ水さん、千里山にあった遊園地、四条畷の飯盛山、島本町の桜井の駅跡、継体天皇陵、勝尾寺、高槻の阿武山、茨木の竜王山などです。たいてい歩いて行くのです。修学旅行は伊勢神宮と決まっていた。

田植えや稲刈りで忙しいとき、何日か学校が休みになって、子どもたちも手伝いました。

お正月は学校で式がありました。紅白のオマンジュウをもらいました。

三宅小学校の運動会は、秋祭りの翌日と決まっていた。お祭りのために来た親類の人が、次の日に運動会を楽しんでから帰るためです。運動会は村じゅうの楽しみだったのです。

夏の夜、学校の運動場で映画会がよくあった。白い布のスクリーンだから、裏から良く見えました。